

Topics

磐田市役所のプロジェクトチームが愛知県・岡崎市視察 先進事例から公民連携、庁内連携への理解深める

先月26日、磐田市役所のリノベーションまちづくりプロジェクトチームが、先進事例の視察として愛知県岡崎市を訪れました。

職員たちは中心市街地の再生に取り組む『QURUWA戦略』の現地を歩きながら、行政と民間が連携したまちづくりの手法について理解を深めました。



磐田市役所では、リノベーションまちづくり事業の推進のため、プロジェクトチームを立ち上げています。この日岡崎市には、経済観光課や都市計画課、道路河川課の職員ら8人が訪れました。

岡崎市では、人口減少や商店街の衰退といった課題に対応するため、約10年間にわたってリノベーションまちづくりを展開。単ににぎわいを生み出すことを目的とするのではなく、『暮らしの質の向上』を最終目標に据えており、まちに住む人や訪れる人が心地よく過ごせる環境を整えることで、結果として人の流れや新たな出店が生まれる形を目指しています。

また公民連携の形として、行政は公園や道路、河川といった公共空間の整備や制度づくりを担い、民間は店舗の出店やイベントの開催など、日常的なにぎわいを生み出す役割を担っています。こうした『大きなリノベーション』と『小さなリノベーション』を組み合わせることで、エリア全体の価値の向上を図っています。

まちあるきでは、民間側のキーマンとして活動する畑克敏氏(株式会社南康生家守舎)と、行政側のキーマンとなる中川健太氏(岡崎市役所)が、乙川沿いの滞在できる空間や店舗の集積、公園がイベントや日常利用が両立する様子などを案内。徒歩5分圏内を基本単位とし、その中に複数の目的地を配置するエリア設計の考え方が共有されました。

職員からは「川沿いや公園、道路などの公共空間が一体的に活用されている様子を通して、『点』が『線』となり、歩いて回れる動線をつくることで、まち全体の回遊性が高まり、『面的な再生』になっている事例を確認できた」との声が聞かれました。

また、取組を進める上での課題も共有され、岡崎市の中川氏は、「市内の連携や関係者との合意形成は容易ではなく、具体的なプロジェクトを通じて調整を重ねることが重要。また、民間と行政の考え方の違いをつなぐ『コーディネーター』となる職員の存在が欠かせない』と説明しました。

磐田市では今年夏にリノベーションスクールを開講予定のほか、積極的な公民連携の推進や公共空間の活用、人材育成などを通じて、リノベーションまちづくりの展開に取り組む方針です。

磐田市リノベーションまちづくり担当：大野寛達氏コメント

「民間の動きが見えてきている本市において、行政側も組織を強固にし、支援していく必要性を改めて感じた。民間の動きや想いをしっかり翻訳をし、先ずは民間主導のスマートエリアビジョンを策定していきたい。」